

Special Interview

MOERI KOIKE

南山大学国際教養学部合格

人として大きく成長できた、
そんな一年でした。



写真・構成：文 | 阿久津伊吹

まず南山大学国際教養学部合格おめでとうございます。国際教養学部で今後勉強されるということなのですが、具体的にどんなことを学ぶのでしょうか？

ありがとうございます！国際教養学部では、コースが2つに分かれており、難民や紛争問題、世界経済など世界の諸問題について学ぶコースとサステイナビリティ（持続可能性）について学ぶコースがあり、どちらの授業も受講することが可能です。また、メディアの授業も受講することができますので、G20に実際にジャーナリストとして取材に行くこともできるそうです。私自身将来メディア系の仕事に携わりたいと思っていますので非常に興味があります。

入試の様子を聞かせてください。

私は〇入試を利用したのですが、一次試験は書類審査で、二次試験は面接と筆記試験がありました。面接では自分で決めたテーマに沿って、プレゼンテーションをしながら話さなければいけません。塾の授業では、プレゼンの構成からプレゼン方法、またスライドの作り方に至るまで綿密に指導をしていただきました。プレゼンを作ってはそれを発表し、先生からフィードバックももらっては、また修正をする。そういった作業をとにかく繰り返すなかで完成度を高め、万全の準備をして入試に臨

入試の様子を聞かせてください。



笑顔がとっても素敵な小池さんです。

むことができました。その甲斐もあって面接官の先生が思わず「素晴らしい！」と言ってくれた時は、とても嬉しかったです。

人熟されたときの学力について良かったら聞かせてください。

わたしは4月の下旬に入塾しました。その頃はすでに英検2級をもっていたので準1級をとって自分の英語力を上げた

と、正直、何も大学受験のことや将来のこともあまり考えていませんでした。でも入塾後、先生の指導を受けるなかで大学受験に対する意識が変わり、受験が自分にとってもっと現実的なものになってきたことで、真剣に取り組むようになりました。振り返ると、授業を受けていくうちに大学進路だけでなく、将来やりたいことも明確になってきた気がします。

塾での指導がどのように役立ちましたか？

すべてですね。自分の人生で普通だったら経験しないことがこの1年で起きた感じでした。もちろん学力があがったことは言うまでもないのですが、人として成長できた1年だった気がします。

例えば、今までは難民に関心はなかったのですが、授業で難民問題について深く調べ、また先生からそれに関するいろいろな話を聞くことで、自分の視野が大きく広がられました。また受験を通して難民などに興味を



阿久津徳高先生（左）と小池萌希さん（右）

もてるようになったことは大きかったです。最初を受験をなめていました。でも受験で自分よりすごい人を見た瞬間に、自分の実力のなさに落ち込み、辛い思いもたくさんしました。そのなかでも努力を積み重ね、自分が納得いくまで頑張る大切さを学んだ気がします。なので後悔は全くありません。

最後に萌希さんにとって受験はどのようなものでしたか？
最初は受験をなめていました。でも受験で自分よりすごい人を見た瞬間に、自分の実力のなさに落ち込み、辛い思いもたくさんしました。そのなかでも努力を積み重ね、自分が納得いくまで頑張る大切さを学んだ気がします。なので後悔は全くありません。こんな自分でも変わることができるとを受験を通して学びましたし、それが今の私の大きな自信になっています。とっっても貴重な経験になりました。